

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

学校整理番号	特4
学校名	青森県立弘前聾学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱

自己評価実施日	令和7年11月25日(火)
学校関係者評価実施日	令和8年2月20日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人理事長1名 ・学校所在町会代表1名 ・大学准教授1名 ・聴覚障害者協会弘前支部会長1名 ・聴覚障害者協会弘前支部事務局長1名 ・本校校長 ※学校運営協議会委員を兼ねる ・幼保園園長1名 ・PTA会長1名 ・耳鼻科医1名

(1) 学校教育目標	<p>ア コミュニケーション力と基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を図る。</p> <p>イ 自分から進んで取り組む子どもを育てる。</p> <p>ウ 心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>エ かかわり合い、認め合う子どもを育てる。</p>
------------	--

(2) 現状と課題	在籍幼児児童生徒数9名の小規模校だが、障がいの多様化と重複化に加え、医療的ケアを要する生徒が在籍し、実態に応じたきめ細かな対応が必要である。聴覚障がい教育の専門性の維持・向上やその時間確保のための業務のスリム化を図ることが課題である。
-----------	---

(3) 重点目標	1 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の充実
	2 地域とともにある学校づくりの推進
	3 教職員の専門性向上と地域における特別支援教育のセンター的機能の充実
	4 学習活動の重点化と働き方改革の推進

(4) 結果の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会で学校評価アンケートの結果と今後の取り組みについて説明・配付した。 ・PTA全体会で学校評価アンケートの結果と今後の取り組みについて説明・配付した。 ・学校ホームページに学校評価結果報告書を掲載し、地域に発信した。
-----------	---

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業力の向上を目指し、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を行っている。	個別の指導計画やICTを活用した教育的対応の工夫、教育的ニーズに応じた学習指導の充実を図る。	個別の指導計画を用いて共有した子ども一人一人の実態に合わせてICTを活用し、教材提示やノート作成、自学学習の工夫等を行い、指導の充実に繋げた。	A	子どもに合わせた学習内容と自立に向けての生活指導がされていて良い。子どもからの「分からない」という声を今後の授業改善につなげてほしい。	学校や家庭の様子について綿密に情報交換をして共通理解をしながら、一人一人の実態や教育的ニーズに合わせた指導を丁寧に行う。
2	地域とともにある学校づくりを推進している。	地域や居住地の学校及び県内聾学校との交流活動の充実と地域の人的・物質資源を活用した教育活動を推進する。	地域や居住地の小・中・高・聾学校との授業や行事、部活動を通じた交流学習、地域人材や施設を活用した少林寺拳法や造形教室、収穫体験等を行った。	A	書道展やダンスレッスンなど、生で観て聴いて体を動かして子どもたちがとても楽しそうであり、地域の方々と交流にもなっているのでとても良い。	地域の学校との交流及び共同学習や外部人材を活用した学習活動を計画的・効果的に行い、多様な学びや経験ができるようにする。
3	教職員の専門性向上と地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に取り組んでいる。	聴覚障がい教育・特別支援教育に関する専門性の維持・向上や乳幼児等教育相談の充実に取り組む。	聴覚障がい教育、特別支援教育及び教科指導について、外部講師によるワークショップを含む研修会を実施し、校内外教職員の専門性向上に成果を上げた。	A	手話を含む多様な手段による指導を経営方針に明記してほしい。地域の特別支援学級の課題をともに解決するなどの検討も必要かもしれない。	専門性の維持や向上のため、聴覚障がい教育や特別支援教育及び教科指導に関する研修の機会を設定する。
4	学習活動の重点化を行い、働き方改革の推進と円滑な校務運営を両立している。	課題分析に基づいた学習活動の展開を重点化し、業務の改善と効率化を図りながら明るい職場づくりを推進する。	教育活動の精選と重点化を図るため、カリキュラム・マネジメントと校務分掌の見直しを行った。業務を可視化し、バランスよい業務分担の準備を行った。	A	経営方針案が示され委員の意見を反映させることができる。職場環境を整えることは、子どもたちや家庭への安心感や教育の質の向上につながる。	職員のウェルビーイングに配慮しながら、スクラップ&ビルドを徹底し、業務のスリム化を行う。他業務に時間を費やせるように会議にかけける時間を短縮する。

(11) 総括	アンケートは4件法で実施し、保護者、児童生徒、職員ともに、平均値のうち最大値3.9、最小値3.2でいずれも高評価であった。全児童生徒が「学校は楽しい」「まあまあ楽しい」と回答したものの、子どもから学習内容等について「難しく分かりづらい」等の改善に関する意見があったので、改善に向けて取り組んでいく。子どもの良さをのばし、やる気ができるように個々の実態に応じたきめ細かな指導を行いながら、教職員と保護者や地域の方々と協力し、安心安全な学校づくりを目指す。また、引き続き業務内容の精選と重点化を徹底し、計画的・効果的にやりがいをもって業務が行われるようにする。
---------	--